

学びの基礎を探る

— 生涯学習の現場での利用に向けて —

山梨県立大学地域研究交流センター

2007 年度研究報告書

学びの基礎を探る

—生涯学習の現場での利用に向けて—

山梨県立大学地域研究交流センター

目 次

	(頁)
1. 研究の概要	(1)
(1) 研究テーマ名	(1)
(2) 研究組織	(1)
(3) 研究の背景と目的	(1)
(4) 研究計画の遂行	(1)
(5) 本研究の地域貢献	(2)
(6) 研究経費	(2)
2. アンケート調査の概要	(3)
(1) アンケート調査の方法	(3)
(2) アンケート用紙の質問内容	(3)
3. アンケート調査の結果および考察	(4)
(1) 学生からの回答内容とその分析	(4)
(2) 教員からの回答内容とその分析	(11)
(3) センター講座等受講者（社会人）からの回答内容とその分析	(14)
4. まとめ	(17)
資料① 学生用アンケート	(18)
資料② 教員用アンケート	(20)
資料③ 一般向けアンケート	(22)

1. 研究の概要

(1) 研究テーマ名

「学びの基礎を探る－生涯学習の現場での利用に向けて－」

(2) 研究組織

〈研究組織名〉

山梨県立大学基礎演習研究会

〈世話人代表〉

斉藤秀子

〈共同研究者〉(五十音順)

大澤準一、大西康夫、小沢典夫、小田切厚美、池田充裕、佐野ゆかり、戸田徹子、浜崎紘一、藤谷秀、前沢哲爾、箕浦一哉、吉田雅彦

(3) 研究の背景と目的

平成 17 年に開学した本学は、国際政策学部、人間福祉学部の各学科の専門科目として、「基礎演習」を開講している。そこでは、大学での学習の基礎となる学習スキルや学習態度を養成し、様々な側面から「学び」について考え、深め、修得することを目指している。「山梨県立大学基礎演習研究会」は、「基礎演習」やこれに関連する科目の教育内容や教材の検討を目的として、同科目に関わる教員を中心に、平成 18 年 7 月 25 日に発足し、活動を行っている。

一方、本学の地域研究交流センターは、開学より地域の人たちの「学び」の場として活用されてきた。このような活動において、「基礎演習」関連科目の教育内容の検討や教材作成の成果を基に、地域で学ぶ人たちに「学び」のための基礎的な考え方や方法論を提供することも、地域交流センターおよび本学教員に求められている課題のひとつである。しかし、「学び」の基礎を提供するための積極的な活動は行われていない現状にある。

このような背景のもと、本研究においては、本学の「基礎演習」関連科目の充実と地域で学ぶ人たちに「学び」の基礎を提供することを目的に、「学び」の基礎的な考え方や方法論を掲載した資料『学びの基礎を探る』（以下、“資料”と略）を作成した。そして「基礎演習」関連科目や地域研究交流センターの講座等での活用を促して、学生や教員、社会人の方々に本資料の評価を仰ぎ、その適切な内容や利用方法、さらには本学における初年次教育プログラム全体を検証しようと考えた。

(4) 研究計画の遂行

〈平成 18 年度〉

平成 18 年度においては、基礎演習研究会活動として資料『学びの基礎を探る』の内容の検討、編集、発行の作業を行った。

〈平成 19 年度〉

平成 19 年度においては、次の研究活動を行った。

- 1) 「基礎演習」において『学びの基礎を探る』を使用し、授業実践を行うとともに、授業を受講した学生を対象にアンケート調査を実施し、分析を行った。
- 2) 「基礎演習」を担当した本学教員、並びにそれ以外の教員に対して、アンケート調査を実施し、分析を行った。
- 3) 地域研究交流センターの講座等において『学びの基礎を探る』を配布し、生涯学習での学びでの利用法を受講者に解説するとともに、その内容についてのアンケート調査を行った。配布した講座は、コミュニティカレッジ、子育て支援講座、プロデューサー養成講座などである。
- 4) 昨年度印刷した『学びの基礎を探る』を、センター講座での配布、並びに平成 20 年度の新入生への配布のために増刷した。
- 5) アンケート調査の分析結果を報告書にまとめ、発刊した。

(5) 本研究の地域貢献

本研究の目的の一つは、本学の「基礎演習」関連科目での教育経験を生かし、地域で学ぶ人たちに「学び」の考え方や方法論を提供することである。

具体的には、平成 19 年度に作成した「学び」の基礎的な考え方や方法論を掲載した資料『学びの基礎を探る』を地域研究交流センターでの講座等で配布し、その内容について解説した。生涯学習の現場で本資料について解説を受けることは、『学びの基礎を探る』の内容を、生涯学習の現場で理解し応用することにつながり、地域で学ぶ人たちの学びかたをより充実したものにできると考えられる。

また、アンケート調査自体も、受講者の学びの方法論について考えるきっかけとなり、今後の地域での生涯学習やリカレント教育の受講に寄与できると考えられる。

(6) 研究経費

予算科目		金額	主な使途と金額
必要経費の内訳	賃金	千円	
	報償費	10 千円	調査の集計、分析など
	旅費	千円	
	消耗品費	5 千円	印刷用紙、インクなど
	印刷製本費	204 千円	「学びの基礎を探る」増刷 研究成果報告書 20 頁
	修繕料	千円	
	役務費（通信運搬費）	千円	
	役務費（手数料）	千円	
	役務費（筆耕翻訳料）	千円	
	使用料及び賃借料	千円	
	備品購入費	千円	
	負担金	千円	
合計		219 千円	

2. アンケート調査の概要

(1) アンケート調査の方法

前述通りアンケート調査は、①本学にて「基礎演習」を履修している学生、②「基礎演習」を担当している教員とそれ以外の教員、そして、③地域研究交流センターの講座等を受講している社会人に対して実施した。

その配布・回収方法、配布時期、配布部数、回収数や回収率は下記の通りである。

1) 山梨県立大学「基礎演習Ⅰ」履修者

方 法：教員による配布、回収

時 期：平成 19（2007）年 7 月～8 月

配布部数：170

回収数： 135

回収率： 79.5%

2) 本学教員

方 法：メールボックス配布、提出

時 期：平成 19（2007）年 10 月～12 月

配布部数：27

回収数： 12

回収率：44.4%

3) 地域研究交流センター講座等の受講者

方 法：講座時に配布、郵送による回収

時 期：平成 19（2007）年 10 月～12 月

配布部数：47

回収数： 17

回収率：36.2%

(2) アンケート用紙の質問内容

『学びの基礎を探る』（以下、“資料”と略）に関して、①学生、②教員、③センター講座等受講者（社会人）の三者向けに配布したアンケート用紙の原本は、本報告書の最後に【資料】として添付する。それぞれに対して尋ねた質問項目は下記の通りである。

1) 学生向けアンケートの質問項目

①資料の利用形態・頻度…「講義内利用」「講義以外利用」「利用なし」の選択回答。

②資料の利用状況…資料の各章の利用状況を「ある」「なし」で選択回答。

③資料の内容に対する意見…各章の内容に対する意見を記述回答。

④「基礎演習」での資料利用の必要性やその方法、その内容（構成、文章の難度、全体の分量、写真・図絵やイラスト、色やデザイン、等）に関する意見を記述回答。

⑤所属学科

2) 教員向けアンケートの質問項目

- ①資料の利用形態・頻度…「基礎演習」講義担当者に対しては授業内での利用の有無、講義担当以外の教員に対しては資料に目を通したか、選択回答。
- ②資料の利用状況…資料の各章の利用状況について、「講義内利用」「読みのみ」「利用しなかった」で選択回答。
- ③資料の内容に対する意見…各章の内容に対する意見を記述回答。
- ④「基礎演習」での資料利用の必要性やその方法、その内容（構成、文章の難度、全体の分量、写真・図絵やイラスト、色やデザイン、等）に関する意見を記述回答。
- ⑤所属学科

3) センター講座等受講者（社会人）向けアンケートの質問項目

- ①資料の利用形態・頻度…「講習内利用」「講習以外利用」「利用なし」の選択回答。
- ②資料の利用状況…資料の各章の利用状況を「ある」「なし」で選択回答。
- ③資料の内容に対する意見…各章の内容に対する意見を記述回答。
- ④講座での学習や自己学習を進める上での本資料のような資料の必要性やその利用方法、その内容（構成、文章の難度、全体の分量、写真・図絵やイラスト、色やデザイン、等）に関する意見を記述回答。
- ⑤参加講座名

3. アンケート調査の結果および考察

(1) 学生からの回答内容とその分析

1) 各学科・各章別にみる『学びの基礎を深める』の利用（閲覧）率

各章について、その利用状況（「実際に読んだ」）をまとめたところ、下記のような結果であった。□の部分は5～7割、■の部分は7割以上の利用（閲覧）率の箇所である。

	1 章	2 章	3 章	4 章	5 章	6 章	7 章	資 1	資 2
全体	59.6%	47.1%	35.3%	38.2%	27.2%	77.9%	25.7%	33.1%	28.7%
総政	41.9%	25.6%	58.1%	20.9%	9.3%	86.0%	11.6%	32.6%	25.6%
国際	62.1%	69.0%	41.4%	20.7%	17.2%	75.9%	20.7%	17.2%	17.2%
福祉	92.5%	27.5%	12.5%	90.0%	67.5%	95.0%	55.0%	50.0%	57.5%
形成	29.6%	81.5%	22.2%	3.7%	3.7%	33.3%	7.4%	22.2%	0.0%

学科別に見ると、福祉コミュニティでは全ての章にわたって、学生が目を通したことがうかがえる。人間形成学科では、授業で2章を読んだ後に図書館ツアーを行ったことで高い利用率となったが、全体的には利用率は低かった。

章別では、1章の「大学でのノートとの取り方」、6章の「レポートを書くには」を参照した学生が多かった。その理由・状況については、この後に掲載する記述意見を参照していただきたい。

2) 資料の内容に対する意見

[第1章 大学でのノートの取り方]

- ◆ どうやって書けばいいのかわからなかったのも、とても参考になりました。(5)
- ◆ 高校の授業とは違う、大学の授業に合ったノートの取り方がわかって良かったです(4) / 高校までのように板書してくれると思い込んでいたため、ポイントつきで書いてあって良かった。
- ◆ 大学に入りたてでわからなかったことが書いてあって役立った / 高校との違いが少しわかった / 高校と違う環境の中で、この章を読むことで、安心できた / 大学の授業がいままでと全く変わるので、そのような点でも参考になった。
- ◆ 具体的だった。ノートのとり方というより、授業の受け方といった感じだった。
- ◆ 結局は説明されたものとは全く違ったノートの取り方をしています。ほとんどの人がそうだと思います / 読んだが実践できなかった。
- ◆ ノートの取り方を授業でやらなければならないのは、残念だ。
- ◆ 写真やイラストを交えて載せていただければ、もっと分かりやすいかと、感じた。

[第2章 図書館の利用]

- ◆ つい、インターネットにたよってしまいがちなので、読んで図書館を利用しようと思うようになった。
- ◆ 図書館の使い方を勉強して、よく利用することになりました / 図書館での本の探し方が分かって、便利になった / 図書館には行ったこともなかったし、時間などわからなかったので書いてあって良かった。
- ◆ 冊子を見たり、実際に図書館に行くことによって利用の仕方がよくわかった / オリエンテーションで図書館に行ったので、それと並行して役立った。
- ◆ 図書館ツアーで実際に説明を聞いたので、読まなかった。(2)
- ◆ 本来、図書館は、学生が勉強をさらに深めるために存在する。よって、このように、本に取り上げる必要はないとおもう。使いたい者だけ使えばよし。
- ◆ ラベルの見方とかは書いてあるけれど、実際行くと分かりづらかった。
- ◆ 荷物が持ち込めないのが大変です。

[第3章 インターネットでの資料検索]

- ◆ 引用、URL の引用、非常に役に立った。(3)
- ◆ ネットの使い方はわかっているから、読まなかった。
- ◆ 今ひとつわからなかった。

[第4章 現場で調べる－アンケート調査・インタビュー調査の方法と注意点]

- ◆ どのようにアンケートやインタビューすればいいか、とても参考になった。(3)
- ◆ 授業のパワーポイントでの説明を平行して、読んだのでとてもよく理解できた。
- ◆ 私達のアンケートに対する誤った認識を改めさせてくれるものであり、また、不適切なアンケートの例なども入っていてわかりやすかった(3) / 例が詳しくて、良かった。
- ◆ アンケート調査に関する知識が間違っていたので、違う方法で調査する前に知れてよかった。
- ◆ アンケートの奥深さを知ることができて良かった / 知らない知識が多かったので、ためになった。

- ◆アンケートやインタビューをやったことがなかったので、詳しく分かり、よかった。
- ◆レポートを書くとき、アンケート調査結果を、どのような構成にすればいいのかわからなかったので例などを挙げて欲しい。

[第5章 コミュニケーション力をつける]

- ◆大学生として新しい生活を送る中で、より良い人間関係を築いていくヒントが多く載っていて良かった。
- ◆コミュニケーションのことだけではなく、ディスカッションのことや一般的なルールも含まれていたのも、参考になった。
- ◆この章はこれから役立ちそうだと思う。
- ◆興味があったのでたくさん読んだ。

[第6章 レポートを書くには]

- ◆とても参考になりました（４）／レポートを書くときに参考にしました／この章を一番使いました／いつも参考にしている。詳しくてよかった／実際レポートを書く時に役立ったので良かったです。
- ◆全く今まで見当がつかない状態だったので参考になった／書き方を全く知らなかったのも、大まかな内容がわかって良かった／レポートの書き方が全くわからなかったのも、この項目がとても役に立ってよかった／具体的なレポートの書き方についての理解があいまいだったので何度か利用した／レポートは試験などいろいろなところで必要とされることなのに、書き方がわからなかったのも、大いに参考になった／この章のおかげで、レポートの構成が分かり、なんとか書くことができるようになりました。
- ◆高校まで書いていた小論文や作文との違いを理解することができる内容であり、レポートを書く機会が多い大学においてとても参考になった（２）／レポートは大学に来るまで書いたことがなかったので、とてもためになった。
- ◆具体的な例がとても参考になった／書式の仕方とかもわからなかったのも良かった。
- ◆各項目に分けて書くこととかが分かってよかった。
- ◆わかりやすかったです。（２）
- ◆具体例がもっとほしかった。（２）
- ◆見本レポートを載せてほしい／とても役に立つので、もっと詳しくても良いと思った。（短めのレポートを丸々1件載せる。書式の基礎的な注意事項とともに）／略さず丸ごと一つレポートの例が欲しかった。
- ◆実際にレポートを書く時、やはり書き方がよくわからなかった。
- ◆あまり参考にしていない。

[第7章 プレゼンテーション]

- ◆まだプレゼンテーションは行う機会がなかったが、一応参考になった。
- ◆とても参考になりました／プレゼンの授業で役に立った。
- ◆プレゼンテーションがどういうものなのか、また、プレゼンテーションの方法、準備、どうすればいいプレゼンテーションができるかなどが書かれており、参考になった。
- ◆講義でもパワーポイントを使った発表をしたので、その準備のために必要なこととかが書かれていて良かった。

- ◆「プレゼンテーションを楽しみましょう」という所が好きです。
- ◆社会に出てもプレゼンテーションをする場があるので、大学のうちに身につけるために役立っていたと思った。

【資料1 学生生活をデザインするために】

- ◆参考になった。
- ◆前もってとか、情報は自ら集めるとか、そういうところに重要性を感じました。知らなかったではどうしようもありませんものね。自分は、ものすごく心配です。
- ◆大学生として新しい生活がスタートして、なかなか馴染めなくて困っていたけれど、何をしたらいいのか目安があって、自分の中で整理できたし、楽しくなってきたととても役立った。
- ◆何年生で何をしたいかが分かってよかった。(特に就職関係)
- ◆授業の組み立て方とかを教えてほしい。

【資料2 データとグラフの基礎の基礎】

- ◆データをグラフにするのが苦手で、今まで避けてきていたけど、この文章を読んでみて、このデータはどんなグラフが適切かなどがわかって良かった。
- ◆分散とか標準偏差とかは難しくてわかりづらい／書いてあることの意味が分からない／内容が結構難しかった印象がある／まだ、データやグラフを扱うのに慣れていないから、よく分からなかった。
- ◆講義の時に読んだが、よく分からない内容だった(2)／講義と照らし合わせながら聞いていたけれど、「基礎の基礎」の割には難しく感じた。
- ◆グラフや計算式がわかりにくい。被服学はまだ受けた事がないので、例の内容が分かりにくいです。

【『学びの基礎を探る』のような資料の必要性の有無、利用方法、またその内容(構成、文章の難度、全体の分量、写真・図絵やイラスト、色やデザイン、等)に関する意見】 (資料の必要性)

- ◆教材は必要だと思う(3)／資料はとても役に立ちました。
- ◆新入生に対してこのような資料を作り、与えることは良いことだと思います／大学生活の入門的知識が詰め込んであり、良いと思う／1年次はまだ分からないことが多いので、このような資料があると助かります／大学というものが、全く分かっていなかった私たちにとって非常に参考になった。是非続けてほしい／本資料はあった方が良い。理由は1年の前期、学生は勉強の仕方がわからないので、このようなガイドを手元に置いておきたいから／「学びの基礎を探る」のような教材は必要だと思います。高校までとは違う大学での学びについて、何もわからなかったので、4月の初めから知る事ができたので良かったです／必要だと思います。大学に入ったばかりで、レポートの書き方とかもわからなかったので／教材は必要だと思う。特に高校にいたときとは違うノートやレポートについての内容はとても役立った。
- ◆資料はもちろん必要だと思うし、あってよかったと感じる。何度でも見直せる点でも、1人一冊もらえてよかったと思う／自分が必要なときに必要な項目だけサッと目が通せるので便利だった／講義などで活用する場面はあまりなかったが、このような資料があると何か困った時や参考にしたいときに助かるのであったほうが良いと思った／授業で聞けなかったところとかを、この本を読んで補うことが出来るので良いと思います／基礎演習の授業だけでなく、

必要を感じた時に見られる資料があるのは良いと思う。

- ◆教材があるほうが、授業も分かりやすいと思います／教材があることで、担当の先生の話と照らし合わせながら聞くことができ、必要に応じて書き込みも出来るので、とても役立った。
- ◆このような教材は必要だと思う。基礎演習での講義だけでなく、普段の生活、学習の中でも役立つし、活用できる。
- ◆このままで十分だと思います。夏休みなど空いた時間に読もうと思っています。
- ◆資料を先生が読むだけの講義はあまり必要性を感じなかった。
- ◆私はテキストの必要性は感じません。基礎演習の伝えたい意図を明確に授業で示す事が出来れば良いと思います。テキストなどで思い返すよりは自分が行動して考えたことを自分で省みる方が妥当だと思います。
- ◆特に必要ないと思います。
- ◆読んでないのでわかりません（３）。

（利用方法）

- ◆フレセミの時にざっと読んで、大学の様子を少し学ぶことが出来たので良かったと思う／フレッシュマン・セミナーでの利用は効果的だと思う。
- ◆配るタイミングがちょっと…／何が分からないのかすら分かっていないときに配布されたのであまり活用できていない気がする。少し生活が落ち着いてから配布したほうが良いのでは…？
- ◆「家で読んで」と言っても、読まない人もいるので、簡単でもいいので講義で使ってほしい。
- ◆授業の中で資料を使う際、連絡が不十分だった。基礎演習がある日は毎回必ずもって来るべきものなのか、使うときだけでもってくればいいのか、はっきりさせて連絡を徹底してもらいたいと感じた。
- ◆資料を利用した指導が、思っていたほどなかった。先生には、もっと要領よく時間を配分して授業を進めてもらいたい。そうすれば、本資料をより有効に活用できるのではないかな。
- ◆今回のような授業の進め方なら、テキストは必要ないと思う。本当に授業内容に沿って見やすいものなら利用しやすいと思う。
- ◆正直、「学びの基礎を探る」が基礎演習の本だとよく分かっていませんでした。教材があるなら使って講義を進めたほうが良いと思う。
- ◆講義でというよりも私的に読むものだと思った。講義で使用するなら読んだと思う。内容についてもあまり知らなかった
- ◆授業で使わないのであまり使わずって感じでした。
- ◆１年生にとって分からないことが載っているの、いいと思うけれど、授業などで取り扱わないと、読まれずに終わってしまうかも知れないと思う、

（内容や難易度）

- ◆わかりやすく良かったです（４）／資料を使ってわかりやすく説明してくれたので良かったです。
- ◆本資料は、わかりやすい言葉で書かれているところが良い。

- ◆チェックシートやチェックリストが使いやすくて良かった。
- ◆入学したばかりは大学生活についてわからないことが多くあるので、ひとつひとつわかりやすくまとめてあって使い易いと思いました。
- ◆この資料は、わたしにとって、とても役に立った。内容も、1年次だけでなく、さらに煮詰めて4年間通して参考にするのができそうなのでいいと思う。
- ◆講義の際にはあったほうが説明も分かりやすく、家などでその授業のものが宿題で出た場合、ノートを取るよりも、図や写真が載っていて分かりやすいです。
- ◆所々内容が難しいところがありましたが、何度も読んだり実際に資料に書いてあるやり方でやってみれば覚えると思うので、このままの資料でいいと思います。
- ◆必要だと思うけど読みにくいし、あまりよくわからなかった／内容がわかりにくいので、具体例などを多く取り入れるなどして、工夫してほしい。
- ◆第1章は少し一方的かなと感じました。

(役に立った内容)

- ◆「第6章レポートを書くには」は役に立ちました。
- ◆レポートを書くのに参考になりました／大学の最初の授業でレポートの書き方やノートのとり方についての説明があったのは、とても参考になったので、是非続けてほしいと思います／一年の初めはレポートの書き方が全くわからないで困惑していたので、これからもこのような教材はあったほうが良い／ノートの取り方やレポートの書き方などは、まだわからないことが多い1年生にとってはとても役立つと思った／「レポートを書くには」がレポートを書く際に大変重宝した。

(分量や体裁)

- ◆小さなサイズで使いやすく、内容も見やすかったです。(3)
- ◆シンプルで良いと思います。
- ◆分量はちょうどいいと思う
- ◆色やデザインも落ち着いてよかった。
- ◆表紙がもろい。4年間使うものならもう少し厚い表紙にしてほしい。
- ◆もっと表紙を可愛くしたら良いと思う。
- ◆もう少し薄いほうが良い。
- ◆全体の分量を減らし、イラストが多いと親しめます(2)／学生新聞(!?)のような感じのイラストなどがあったら読みやすかったかもしれません／カラーにしてあれば、もっと見やすいと思う／カラーやイラストがあるともっと読みやすいと思いました(2)／教材は文章ばかりだったので、イラストや写真を使ったほうがいいと思う。
- ◆資料があると分かりやすくてよいが、文章ばかりだと読む気をなくすので、所々具体的な図などを入れてくれるとありがたいです。
- ◆もう少し大きい本のほうがみやすいかも。
- ◆文字が小さいと思った。

(改善意見)

- ◆もっと簡単な、学生の視点からの「大学生活」的なことが書いてあれば、全体的にイメージしやすいと思う。
- ◆レポートの書き方や文の引用方法の注意点がもう少し詳しく示してあれば良いと思った／「レポートを書くには」を特に読みましたが、もっと詳しく載っていれば良かった。
- ◆具体例がもっとあるとさらによい。
- ◆読む気がしない。学科別に作る（または学科のページを作る）のがいいと思う。漠然としているとつまらない。

寄せられた学生の意見について、その特徴を以下3点にまとめてみたい。

1. 高校と大学の“学びのスキルや文化”の違い…『学びの基礎を探る』（以下、“資料”と略）の必要性の有無について尋ねたところ、「必要である」との意見が圧倒的であった。その理由として、「大学というものが全く分かっていなかったので、非常に参考になった」「大学に入ったばかりで、レポートの書き方とかもわからなかった」「学生は勉強の仕方がわからないので、このようなガイドを手元に置いておきたい」など、高校とは異なる“大学の学びのスキルや文化”に、本資料を通していち早く適応できる利点を挙げた意見が多かった。

現行の学習指導要領でも、「総合的な学習の時間」をはじめとして、全ての教科において児童・生徒の主体的で創造的な学びを重んじ、問題解決力や情報分析力の育成を目指している。しかし、高校受験期はいまだに〇×式で一つの正解を求める詰め込み学習のスタイルが主流であり、生徒も受け身型の学習文化にどっぷりと浸ってきた。このため、主体的に情報を収集・分析し、多様で複雑な解の中から、当該分野の基礎知識や先達の研究業績を踏まえて、自分の頭を使って論をまとめて発表するといった、大学の学習スキルやスタイル、学びの文化に対して、戸惑いや違和感を覚える学生も少なくない。

この点で、本資料は、プロローグの「大学で学ぶということ」で学生を学問の世界に誘い、資料1「学生生活をデザインするために」で就職活動までも含めた4年間のキャンパス・ライフの見通しを提示し、各章で大学での学習スキルを分かりやすく解説しており、学生からの評価も非常に高かったようである。

2. 困難に感じる学習内容・課題（ノートとレポート）…個々の章への記述意見を見ると、第1章「大学でのノートの取り方」と第6章「レポートを書くには」を参考にした学生が多かったようだ。「高校の授業とは違う、大学の授業に合ったノートの取り方がわかって良かった」「高校までのように板書してくれると思い込んでいたため、ポイントつきで書いてあって良かった」「レポートの書き方が全くわからなかったので、この項目がとても役に立って良かった」「高校まで書いていた小論文や作文との違いを理解することができる内容」と好評であった。中学や高校では、教員が板書計画を前もって立て、机間巡視やワークシートなどで生徒の理解度を細かに把握することが通常であるが、大学ではあまりそのようなことがなされない。ノートのまとめ方やレポートへの準備、書き方が、大学での学業の躓きになりかねないことが、今回のアンケートからも明らかになった。

また、第4章「現場で調べる」や第7章「プレゼンテーション」についても、ポイントや具体例が分かりやすく、今後、演習やゼミで増えてくる調査や発表などの場面で役立つとの意見が出された。

今日では学生による授業評価も常識となり、教員もビデオやパワーポイントなどの視聴覚資料を用いたり、発表やディベート、体験活動などを組み入れたりして、魅力的な授業作りに取り組んでいる。しかし学生がいざその学習内容を省みようとした時、授業で示された情報がきちんとその手元に留まっているのか、今一度留意しながら授業を組み立て、課題提示を行うように心がけたい。

レポートの書き方、引用等の提示方法などは、本資料を参考にして、各学科でその専門性に基づいて、共通の形式を「基礎演習」の場で提示しておくことが望ましい。このことで、以後のレポートの執筆や指導の際、学生、教員それぞれの負担を軽減できると考えられる。

3. 『学びの基礎を探る』の利用方法…上記のように、資料の内容については概ね好評であったのだが、今後の課題として挙げられるのが、その利用方法（配布時期、資料の説明、授業での使い方）である。

「フレセミの時にざっと読んで、大学の様子を少し学ぶことができたので良かった」「フレッシュマン・セミナーでの利用は効果的」との意見がある一方で、「何が分からないのかすら分かっていないときに配布されたのであまり活用できていない」との意見があった。県外出身の学生が多い本学では、文字通り右も左も分からない状況で、学業や生活全般に関して漫然とした不安にとらわれる学生も多い。本資料のように、これから始まる新しい学びの世界への興味を喚起し、必要となる基本的な学習スキル・習慣を優しく（易しく）説く入門書の役割を、フレッシュマン・セミナーのような学習効果の高い場面で、適切に用いていくことが今後求められる。

また「基礎演習」などでの利用方法についても、「毎回必ずもって来るべきものなのか、使うときだけ持ってくればいいのか連絡を徹底してほしい」「資料を利用した指導が思ったほどなかった。もっと要領よく時間配分をしてほしい」といった指摘があった。シラバスへの利用時期・方法の明示、図書館との連携、2年生以上の講義・演習等や就職指導での利用など、今後各学科で幅広く、本資料の利用場面・方法を検討していく必要があるようだ。

（2）教員からの回答内容とその分析

【第1章 大学でのノートの取り方】

- ◆担当授業に対し、学生よりノートを取る必要性和方法について質問がありましたので、私が実施してきた方法の紹介とこの資料が参考になることを紹介しました。
- ◆学生に各自自主的にインターネットでノートの取り方を検索するよう勧めつつ、9ページの囲み「五つの鉄則」を示している点が、親切で分かりやすい。余談、「新聞記者の取材メモ術」は筆者ならではの記述で興味深く、大学でのノートにも参考になる。
- ◆「A4サイズのノート」を鉄則として書いてくださっているのはありがたい。既にそうしたノート類を使用している学生が多いとして、個人的にも資料はA4で作成している。

【第2章 図書館の利用】 ◆ある事項を各自調べることを課題として、課した折、方法については本誌を参考にするようにと紹介しました。 ◆各項目の説明が、簡潔で分かりやすい。自分で本を探すだけでなく、気軽に職員に相談が出来るような雰囲気が伝わって来る。 ◆図書館ツアーで一部の1年生に利用した。入門編の図書館オリエンテーション後に利用したほうが効果がありそう。2年生以上に利用する機会をもちたい。 ◆図書館を利用する学生が少ないのは驚くばかり。本学以外の図書館の活用が書かれていることは、「行ってみる」体験が出来るきっかけになると思った。
【第3章 インターネットでの資料検索】 ◆特に、「一次情報と二次情報」についての記述が、新入生に役立つと感じた。 ◆最近のレポートはインターネットでの資料引用が多く、その問題点を指摘する必要がありましたが、ポイントが押さえられた内容であると思いました。
【第4章 現場で調べる－アンケート調査・インタビュー調査の方法と注意点】 ◆質問の不適切な例が絶妙で、興味を持って読む事ができ、アンケート調査・聞き取り調査は安易には出来ない事が実感として良くわかる。 ◆専門によって調査の仕方が異なると思うが、基本的な留意点がすべからくまとめられていた。
【第5章 コミュニケーション力をつける】 ◆演習・ゼミ・ディスカッションによる学びなどにまだ不慣れな学生にとって、とても参考になる内容になっている。メールの掟も学生必読、2、3年生にも読ませたい。 ◆興味深い章でした。個人的には（うまくいっているかどうかは別にして）ディベートについても説明を加えていただきたかったです。
【第6章 レポートを書くには】 ◆新入生に最も有益な章。補足教材も使って、授業を強化した。 ◆授業の中で学生に紹介しました。 ◆予習して来た学生とそうでない学生との差があり、授業がしづらかった。既に読んだ学生には、本に書いてない事、実際例などを多く付け加えて講義する必要がある。この授業以前に、別の科目でレポート提出を求められた際、この本が役立ったとの事。 ◆昨年よりレポートのまとめ方がうまくなったと感じるのは、この章の内容が徹底されているせいかもしれません。
【第7章 プレゼンテーション】 ◆授業の中で学生に紹介しました。 ◆技術だけでなく「伝える内容」と「伝える意志」が強調されている点が印象的。Sample も分かりやすく、興味深い。 ◆レジュメ・パワーポイントについての内容は興味深く読み、学びました。とくにパワーポイントについて。
【資料1 学生生活をデザインするために】 ◆読んで納得。自分の学生時代に読んでおきたかった内容が書いてある。 ◆読んで楽しい資料でした。

[資料2 データとグラフの基礎の基礎]

- ◆いわゆる文系の、数式やグラフに弱い学生が多いようなので、不可欠な内容だと思う。図2の棒グラフの上に書かれている縦線の説明を本文中にはっきり入れたほうが良いのでは？
- ◆資料1、2は+α的な内容なのかも知れませんが、この少ない文章の中で、きちんと入れてくださって良かったと思います。この本を作られた先生方だけでなく、本学からのメッセージのようにも思われました。

『学びの基礎を深める』のような資料の必要性の有無、利用方法、またその内容（構成、文章の難度、全体の分量、写真・図絵やイラスト、色やデザイン、等）に関する意見

- ◆学生にとっては参考になると思う。授業ではあまり扱わなかったが、読む事を推奨した。
- ◆プレゼンテーションの授業で持っていない学生に渡し、教材として使用した。
- ◆とても具体的で分かりやすい内容で、大学での学びの基礎のテキストとして最適だと思う。
- ◆非常によく出来ていると思う。7つの項目も申し分ない。当面改定不要。基礎演習担当者としては、もっと授業に活用すべきだったと反省している。
- ◆この内容以上の場合にだけ個別に指導が必要ですが、本学での学びの基本事項として教員も学生も共通理解をして進めることが出来ますので、感謝です。
- ◆コンパクトで分かりやすく、新入生が読む気になれる仕上がりだと思う。
- ◆実際に授業をしてみて、役立ったので、来年度以降も学生に配布できると良いと思う。
- ◆かなり充実した内容なので、これを1年生だけでなく、他の学年にも利用してもらえたら良いと思う。図書館でももっと有効に利用することを考えたい。
- ◆全体的に大変分かりやすく書かれてあり、学生にとって有意義な本と思いました。後期の「基礎演習Ⅱ」では前期をダブルかもしれませんが、テキストとしてレポートのまとめ方、調査のまとめ方などを確認させたいと思います。
- ◆大学での学習方法を身につけるために必要な教材だと思います。ただ、基礎演習のような授業での利用方法を色々研究していただけるとさらに、有益かと思います。たとえば、レポートの書き方は、学問分野によって多少変わるところを学生にしっかり伝える、など。
- ◆情報リテラシーでは「コンピューターとネットワークを利用してレポートを書く」ということをやっています。そのためにダブる所もあります。重要なことはダブっても良いと思いますが、無駄はよくありません。リテラシーの授業をやっていて気づくのは人数が多く（40名ほど）添削指導やプレゼンテーションを実際にやって見るということが出来ていなかったので、そういった所を双補完的にご指導いただけると嬉しいです。

回答数は少なかったが、寄せられた教員からの意見でも、本資料の内容は概ね好評であった。「基本的な留意点がすべからくまとめられている」「自分の学生時代に読んでおきたかった内容」「とても具体的で分かりやすい内容で、大学での学びの基礎のテキストとして最適」「コンパクトで分かりやすく、新入生が読む気になれる仕上がり」「実際に授業をしてみて、役立った」「全体的に大変分かりやすく書かれてあり、学生にとって有意義な本」「昨年よりレポートのまとめ方がうまくなったと感じるのは、この章の内容が徹底されているせいかも」との意見が出された。

また、「これを1年生だけでなく、他の学年にも利用してもらえたら良いと思う」「基礎演習

のような授業での利用方法を色々研究していただけるとさらに有益かと思います。たとえば、レポートの書き方は、学問分野によって多少変わることを学生にしっかり伝える、など」のように、より幅広い活用場面や具体的な利用方法の提案もあった。今後、「基礎演習」担当教員だけでなく、学部・学科や委員会単位でも、本資料の活用方法を検討していくと良いだろう。

(3) センター講座等受講者（社会人）からの回答内容とその分析

【第1章 大学でのノートの取り方】

- ◆私が高校や大学で学んだころは誰もノートの取り方を教えてくれませんでしたから、自分で考えてノートを取りました。そんなことを考えると、今の学生はこうして教えてもらって幸せだと思いました。
- ◆基本は鉛筆と紙に賛成。ノートは見開き云々はヒントにしても自分のものを工夫すべきだと思う。自分の気づきや考えの記入も必要だと思う。
- ◆後に参考にするためにも講義の内容・要点をノートにとっておくが良い。
- ◆参考にし、これからセミナーなどに行った時、心がけたいと思います。メモしながら、話に置き去りにならないよう…脳トレに良いですね。
- ◆①先生の講義は、講義別に箇条書きにして重要な所はアンダーラインか仮名で書き、後で辞書で引き、書く。②講義はボールペン書きは遅いので鉛筆書きにすることです。③年が若くても、老いても、人間の記憶は薄れるものです。
- ◆40 数年前、よくノートをとりました。忙しくメモして、家で整理していたこと、懐かしく思い出しました。このことが癖になって、講演など聞くとすぐメモして家で活用しています。
- ◆今更必要なし。

【第2章 図書館の利用】

- ◆今の大学生がうらやましいです。もっと、学習しておけばよかったと反省しています。インターネットも無く、読みたい本もあまりなかったので、柳生堂や朗月堂に行きました。
- ◆図書館しか利用する所が無かった私たちの世代では、何かと言えば、自然図書館へ行って調べたものです。今の人は、図書館の利用は下手だと思います。そういう中で大切な図書館の利用に慣れて欲しいです。
- ◆情報が溢れている現在の図書館利用は大変。活字以外の資料の利用が丁寧で「なるほど」。第3章との関連に言及があれば。
- ◆毎日の家事に追われ、落ち着いて読書する暇も無く、テレビ・新聞で世間のニュースを知るくらいですが、図書館利用法を読み、これからは、秋の夜長、読書に時間を取りたいと思った。
- ◆改めてもっと図書館を利用していきたいな…と感じました。
- ◆日常、なんとなく利用していましたが、目的にあった図書館選びもしてみようというヒントになりました。
- ◆生涯学習センターなどの講座の資料などに利用している。また、話題の本、山梨の歴史など読む事が、楽しみで行っている。

【第3章 インターネットでの資料検索】

- ◆こうしたものを駆使して学ぶことに驚き。利用の技術向上と同時に読み取り、考え込み、判断することをどう取り入れるかも教えて欲しい。

◆メディアに弱い年齢で、インターネットの検索も難しいと思っていたが、スピーディーに最新情報を知る上で、勉強し、経験してゆこうと思った。 ◆今まで良く分からなかったインターネットでの検索が楽しくなった。 ◆ネットでの検索は、思い立ったときにすぐ選び、取り出せるので状況に合わせて使う事は有意義だと理解できました。 ◆高齢でパソコンをしていますが、調べたい事がある時、どんな事でもしらべられてすばらしいと思いました。 ◆インターネット使用の便利と引き換えに、リスクとセキュリティに関して、説明を欲しい。 ◆年齢的に不必要。
【第4章 現場で調べる－アンケート調査・インタビュー調査の方法と注意点】 ◆ただ漠然とアンケートやその結果を見ていたりしたが、注意点について参考になった。 ◆具体的で良くわかる。実際に行うことは難しいと思われるので、事前にチェック（仲間・教師）を受ける必要があるのでは。 ◆アンケートのとり方の難しさを再認識しました。その通りです。 ◆①具体的で十分です。②調査のアンケートの項目は、項目別に簡潔な答えが得られるよう質問が大切です。③調査セッティングの項では、最初に挨拶状をすることです。
【第5章 コミュニケーション力をつける】 ◆より良いコミュニケーションをとるための、参考になり、心がけたい。 ◆人前力を身につけたいですね。 ◆生きていく上で、避けては通れないものですが、コツを掴めば意外とスムーズに行くのかなと理解しました。 ◆まさにその通りの内容です。 ◆就職の面接をはじめとして、役立ちます。社会生活において基本として重要です。 ◆常識(年配者にとって)と思われることも、「学びの基礎」という意味では具体的に教えられる必要がある。チェックシートを重視すると、消極的になってしまわないか、心配。
【第6章 レポートを書くには】 ◆パターン化してあるので、執筆中、提出前に座右において有効。その中で、書き手らしさを出す勉強と表現を学びたい。 ◆細かい内容で良いと思います。 ◆今更必要なし。
【第7章 プレゼンテーション】 ◆高年齢のため会合などが多々あり、自己紹介の機会がたくさんあるので、これからはユーモアに富んだ自己紹介が出来るようにしていきたいと思った。 ◆回数を重ねて慣れることが必要ならば、大学生活でどんな場が用意されるのか（大学として、仲間で）触れて欲しい。
【資料1 学生生活をデザインするために】 ◆2年生の時点で、ゼミ、研究グループなどにて指導の先生とより親しいコミュニケーションが望まれます。科目の取得の点検と組み立てや、就職時に先生の紹介状をお願いできるくらいにしたいです。

[資料2 データとグラフの基礎の基礎]

- ◆参考事例に山梨県と全国対比の紹介をお願いしたい。内容は、介護では初期対策に使えるように（介護予防方法に）後期高齢者の市町村別の健康者数とその心がけていることなど。

『学びの基礎を探る』のような資料の必要性の有無、利用方法、またその内容（構成、文章の難度、全体の分量、写真・図絵やイラスト、色やデザイン、等）に関する意見

- ◆各章とも内容がすばらしく、細部まで教えられる事でいっぱいでした。大学生の言葉のとおり、「物事はできる」か「できない」ではない。「やるか」「やらない」かである。に心を打たれました。年齢に拘らず、前向きに挑戦し、勉強していきたいと思い、この機会を与えて下さったことに感謝します。とてもすばらしい参考資料として身近に置いて、利用していききたいと思いました。細部に渡っての、先生のご指導、本当にありがたく、読ませていただきました。この県立大の講座を受講できてよかったです。
- ◆必要なことが大変わかりやすく書かれていました。これからの活動に利用させていただきたいと思います。ありがとうございました。
- ◆学びの基礎の基礎が編集されていて大変参考になった。普段、講座に参加してもただ聴講だけであったが、この冊子のおかげで、「学ぶとは、学習とは何ぞや」が楽しくなり、前進できる。
- ◆もっと若いときに、このような講座を多く受けることが出来なかったのが残念ですが、今からでも講習には出かけるよう心がけます。
- ◆きめ細かい丁寧、分かり安い資料で気分良く、受講できました。受講中、資料の要点に赤線を引いたり、メモ書きを重ね、帰宅後ノートへ整理しています。聞いて、読んで、書くことを心がけています。
- ◆項目によっては非常に役に立つ。講習会などでは関連章のコピーで十分だと思う。文章は分かりやすく、分量も適当。やや、子ども扱いし過ぎている感も。学生が常に机の上に置いてチェックできる利用法を工夫して欲しい(本棚塞ぎにせずに)。
- ◆年を重ねるとすぐ忘れてしまうので、資料や教材があると見直すことが出来ます。生活にリラクゼーションの可愛いイラストを見て、実行しています。
- ◆受講の資料は箇条書きにて分かりやすくなっていると思います。
- ◆実技部の図解と解説は大変分かりやすく、独学(家で)出来ました。
- ◆資料印刷は白黒で十分です。「眉間のしわを取る」ページと同じように「肩の鎧をはずす」と「歩いて邪気を落とす」を印刷していただくと、重要な事項が読みやすくなると思います。
- ◆図書館の利用の仕方、調査の仕方、レポートのまとめ方など、昔より親切。
- ◆初歩的（全体に）なんです。今の学生は、このような指導より始めるのでしょうか？
- ◆関心があるものは必要と思われるが、そうでないものは不必要
- ◆1から7章までの個々に分けた講座を設けて欲しい。
- ◆この講習会などには以前の県短時代、また、文学館、生涯学習センターなどの講座には事情の許す限り出席していますが、これら講座に出席する人たちの年齢的から見て、このようなアンケートは不必要と思います。このような内容は今さら不要と思います。それぞれに一生懸命生きて来てやっと自分の時間が持てるようになったものです。もっと気軽に楽しく話がきけるような楽しい講座にしてください。講座の話は楽しく聞けました。アンケートはもっと若くこれから学生を続ける人を対象にしたらいかがですか。

社会人向け講座においても、本資料のように、学び方を学ぶための資料は新鮮に感じられたようである。「私が高校や大学で学んだころは誰もノートの取り方を教えてくれませんでしたから、…今の学生はこうして教えてもらって幸せ」「今の大学生がうらやましいです。もっと、学習しておけばよかったと反省」「この冊子のおかげで、『学ぶとは、学習とは何ぞや』が楽しくなり、前進できる」といった好意的な意見が多く寄せられた。一方で、「今の人は、図書館の利用は下手」「やや、子ども扱いし過ぎている感も」「初歩的（全体に）なんですね。今の学生は、このような指導より始めるのでしょうか？」といった指摘もあった。

本資料を通して、社会人の方々が自身の学びの意識や技法を高めるだけでなく、本学の初年次生への取り組みや学生に対する姿勢、本学の学生の質や学業で求められる水準、さらには今日の日本の大学の社会的役割の理解にも資する部分があったと思われる。

4. まとめ

これまで大学や短大の初年次教育では、東京大学教養学部がまとめた「基礎演習」用のテキスト『知の技法』がよく用いられてきたかと思う。同書は図解や写真も多く、学問の世界の作法や面白さを分かりやすく説いていたが、やはり難度も（価格も）高く、本学での「基礎演習」などでは扱いにくい部分もあった。そのような中、本学で最初の試みではあった『学びの基礎を探る』が、学生や教員、社会人の方々から高い評価を得られたことをまずは喜ぶたい。

初年次教育は“高校の学び”から“大学への学び”へと架橋するための教育であるが、その方法論には正解はない。大学の理念、学部・学科の性格や学習内容、当該年度の学生の様態（学力、資質、志望動機、集団特性、卒業後の希望職種、留学生や社会人学生の数、など）で、その内容や構成は異なってくる。学生からも「学科別で作る（または学科のページを作る）のがいいと思う。漠然としているとつまらない」という意見が出されていたが、本資料に各学科独自の補足情報や資料などを付け加えて、当該分野の専門知識と結びつけ、柔軟に授業内容を構成していく工夫が求められるだろう。

既に多くの大学で初年次教育モデルを導入・実践し、「特色ある大学教育支援プログラム」（特色 GP）でもこれに関連した研究成果が採択されて、活動報告が行われている。今年3月には初年次教育学会も設立された。今後は、フレッシュマン・セミナーや基礎演習に代表される本学の初年次教育も、他の大学の成果にも学びながら、さらに継続的な検証と不断の見直しが求められてくるだろう。その意味でも、本資料の刊行によって、本学の学生に求められ基礎的な学習スキル・態度の最初の骨格を明示できたことは重要である。

それとともに本資料は、教員の今後のFD活動においても一つ指針となるだろう。さらに多様化してくる学生に対応し、4年間の学業の基盤作りをサポートするために、教員もまた、学生の動機づけの方法、当該分野で求められる基礎知識の水準、最低限身につけなければならない学習スキル・態度などを共通に把握する必要がある。学生とともに教員も、本資料に目を通して、初年次生に対する授業内容の構成や教授法の改善に向けて活用していくことが望まれる。

（文責 池田充裕）

【資料① 学生用アンケート】

「基礎演習」資料『学びの基礎を探る』に関するアンケート

山梨県立大学基礎演習研究会

本年3月に刊行した「基礎演習」用の教材資料『学びの基礎を探る』について、学生の皆さんの利用状況や要望などを聞きたいと考え、アンケートを用意・配布します。資料作成や授業改善に役立てたいと思いますので、よろしくご協力をお願いします。

(1) 本資料の利用状況について、以下の選択肢から選び、該当する項目(a～c)に○を付けてください(複数回答可)。

- a. 「基礎演習」の講義中に、本資料を利用して、内容を読んだ。 → (2) へ
b. 「基礎演習」の講義以外(自宅など)でも、本資料を読んだ。 → (2) へ
c. 本資料には全く目を通していない。 → (3) へ

(2) 本資料を「a. 講義中に、本資料を利用して、内容を読んだ」、または「b. 講義以外(自宅など)でも、本資料を読んだ」方にお尋ねします。下記の各章について、実際に読んだ場合には左欄に◎を書いてください。読んでいない場合は×を入れてください。また各章の内容に関して、意見がありましたら書いてください。

・第1章 大学でのノートの取り方

	意見
--	----

・第2章 図書館の利用

	意見
--	----

・第3章 インターネットでの資料検索

	意見
--	----

・第4章 現場で調べる－アンケート調査・インタビュー調査の方法と注意点

	意見
--	----

・第5章 コミュニケーション力をつける

	意見
--	----

・第6章 レポートを書くには

	意見
--	----

・第7章 プレゼンテーション

	意見
--	----

・資料1 学生生活をデザインするために

	意見
--	----

・資料2 データとグラフの基礎の基礎

	意見
--	----

(3) 全ての方にお尋ねします。基礎演習での講義に際して、本資料のような教材の必要性の有無やその利用方法、またその内容（構成、文章の難度、全体の分量、写真・図絵やイラスト、色やデザイン、等）などについて意見がありましたら書いてください。

--

(4) あなたの所属する学年、学科に○をつけてください。

学年 （1年次 2年次 3年次 ）

学科 （総合政策学科 国際コミュニケーション学科 福祉コミュニティ学科 人間形成学科）

ご協力ありがとうございました。本アンケートは、下記期日までに提出してください。

★提出先 ：教務室前レポート提出ボックス 「学びの基礎を探る」

★提出期日：8月1日（水）

「基礎演習」資料『学びの基礎を探る』に関するアンケート

山梨県立大学基礎演習研究会

本年3月に刊行いたしました「基礎演習」用の教材資料『学びの基礎を探る』について、その利用状況やご要望などをお聞きしたいと考え、アンケートを用意・配布させていただきました。特に基礎演習をご担当の先生方にはご意見をお寄せいただきたく、よろしくお願いいたします。

(1) 本資料のご利用状況について、以下の選択肢から該当する項目(a～d)に○を付けてください。

- a. 「基礎演習」の講義を担当しており、実際に本資料を授業で利用した。 → (2) へ
- b. 「基礎演習」の講義を担当しているが、本資料は授業で利用しなかった。 → (3) へ
- c. 「基礎演習」の講義を担当していないが、本資料に目を通した。 → (2) へ
- d. 「基礎演習」の講義を担当しておらず、また本資料もよく見ていない。 → (3) へ

(2) 本資料を「a. 授業で利用した」、または「c. 目を通した」先生にお尋ねします。下記の各章について、実際に授業で利用した場合は左欄に◎、阅读した場合には○、また利用しなかった場合には×をお書きください。また各章の内容に関して、ご意見がおありでしたら右欄にお書きください。

・第1章 大学でのノートの取り方

	意見
--	----

・第2章 図書館の利用

	意見
--	----

・第3章 インターネットでの資料検索

	意見
--	----

・第4章 現場で調べる－アンケート調査・インタビュー調査の方法と注意点

	意見
--	----

・第5章 コミュニケーション力をつける

	意見
--	----

・第6章 レポートを書くには

	意見
--	----

・第7章 プレゼンテーション

	意見
--	----

・資料1 学生生活をデザインするために

	意見
--	----

・資料2 データとグラフの基礎の基礎

	意見
--	----

(3) 全ての先生方にお尋ねいたします。基礎演習での講義に際しまして、本資料のような教材の必要性の有無やその利用方法、またその内容（構成、文章の難度、全体の分量、写真・図絵やイラストなどの配置、等）などについてご意見がありましたらお書きください。

--	--

(4) 所属する学科に○をつけてください。

総合政策学科 国際コミュニケーション学科 福祉コミュニティ学科 人間形成学科

以上となります。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

なお恐縮ですが、本アンケートについては、下記期日までにご提出いただけますと幸いです。

★提出先：斉藤秀子（基礎演習研究会世話人代表）メールボックス

★提出期日：8月1日（水）

「基礎演習」資料『学びの基礎を探る』に関するアンケート

山梨県立大学基礎演習研究会

本年3月に刊行いたしました「基礎演習」用の教材資料『学びの基礎を探る』について、その利用方法やご要望などをお聞きしたいと考え、アンケートを用意・配布させていただきました。ご利用になった方々のご意見をお寄せいただきたく、よろしくお願いいたします。

(1) 本資料の利用状況について、以下の選択肢から選び、該当する項目(a～c)に○を付けてください(複数回答可)。

- a. 本学の講習等において本資料を利用し、内容を読んだ。 → (2) へ
- b. 講習以外の時間(自宅など)でも、本資料を読んだ。 → (2) へ
- c. 本資料には全く目を通していない。 → (3) へ

(2) 本資料を「a. 本学の講習等において本資料を利用し、内容を読んだ」、または「b. 講習以外の時間(自宅など)でも、本資料を読んだ」方にお尋ねします。下記の各章について、実際に読んだ場合には左欄に◎を書いてください。読んでいない場合は×を入れてください。また各章の内容に関して、意見がありましたら書いてください。

・第1章 大学でのノートの取り方

	意見
--	----

・第2章 図書館の利用

	意見
--	----

・第3章 インターネットでの資料検索

	意見
--	----

・第4章 現場で調べるーアンケート調査・インタビュー調査の方法と注意点

	意見
--	----

・ 第5章 コミュニケーション力をつける

	意見
--	----

・ 第6章 レポートを書くには

	意見
--	----

・ 第7章 プレゼンテーション

	意見
--	----

・ 資料1 学生生活をデザインするために

	意見
--	----

・ 資料2 データとグラフの基礎の基礎

	意見
--	----

(3) 全ての方にお尋ねします。講習会や自己学習を進める上で、本資料のような教材の必要性の有無やその利用方法、またその内容(構成、文章の難度、全体の分量、写真・図絵やイラスト、色やデザイン、等)などについて、ご意見がありましたら書いてください。

--	--

(4) あなたが参加した講座名を下記にお答えください。

講座名 ()

ご協力ありがとうございました。

山梨県立大学地域研究交流センター2007年度研究報告書

学びの基礎を探る－生涯学習の現場での利用に向けて－

発行	平成 20 年 3 月
編集	山梨県立大学基礎演習研究会
世話人代表	人間福祉学部 斉藤秀子
世話人	人間福祉学部 佐野ゆかり 吉田雅彦
会員	国際政策学部 大西康雄 小沢典夫 浜崎紘一 前沢哲爾 箕浦一哉 戸田徹子 人間福祉学部 大澤準一 藤谷秀 池田充裕 図書館 小田切厚美
連絡先	〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5 丁目 11 番 1 号 TEL 055-224-5261 Fax 055-228-6819
印刷	株式会社 三緑



University Center for Research and Exchange

山梨県立大学地域研究交流センター

〒400-0035 甲府市飯田 5 - 11 - 1
TEL 055-224-5310 FAX 055-224-5330